

九州学院みどり幼稚園100年のあゆみ



作成：九州学院創立100周年記念 歴史資料・情報センター

熊本でルーテル教会の教会学校が始まる

1904（明治37）年頃の熊本教会日曜学校



A SUBURBAN SUNDAY-SCHOOL, KUMAMOIO, JAPAN.
(Mrs. C. L. Brown, Missionary in Charge, now on Furlough.)

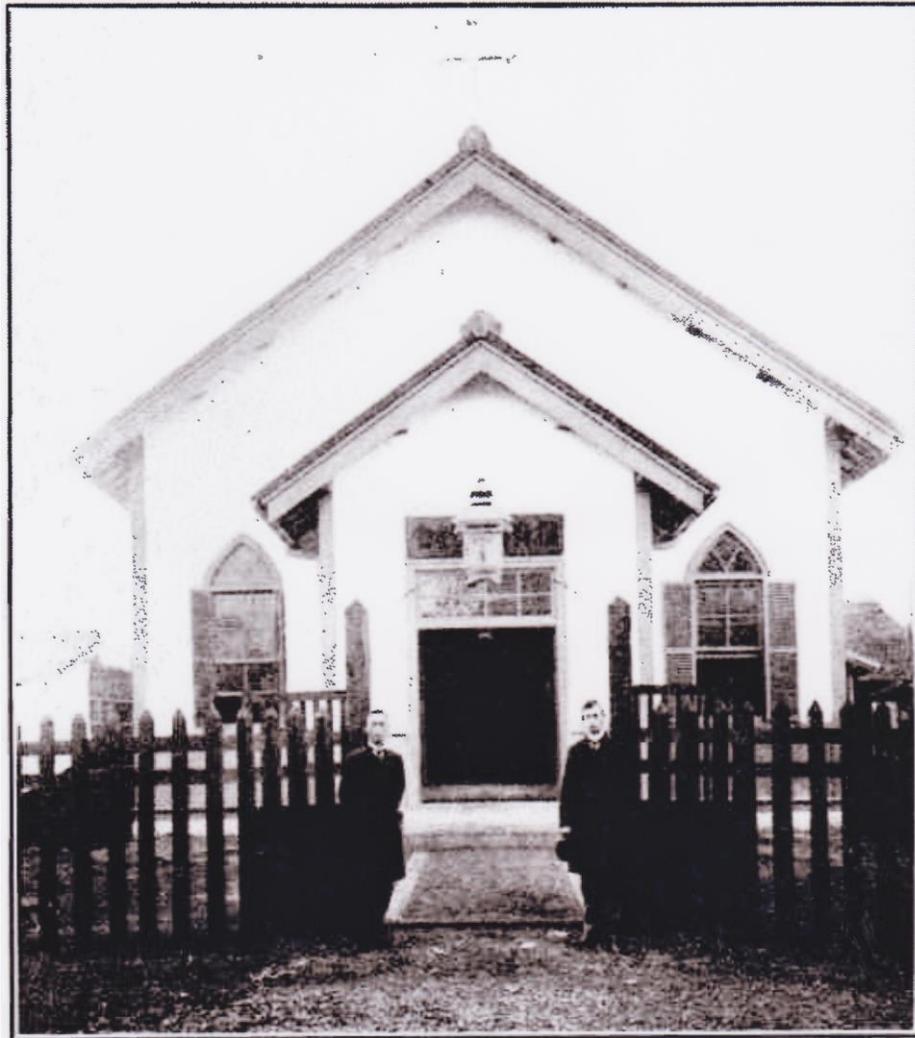


STREET IN FRONT OF THE SUNDAY SCHOOL BUILDING
KUMAMOIO, JAPAN

郊外の熊本教会日曜学校

左端：安達さん、右から2番目：ブラウン夫人，右端：五高生・江副巽（五高花陵会第8回生、ブラウン宣教師から受洗）
ブラウン宣教師がコダック製カメラで撮影か。

1905（明治38）年ルーテル熊本教会献堂 日曜学校教室が設けられる



Kumamoto Chapel

1906（明治39）年4月、熊本教会の**牧師館**を建設。**日曜学校教室**を設けて、全施設落成。幻灯機を信徒や求道者宅へ携え、伝道活動を活発化。

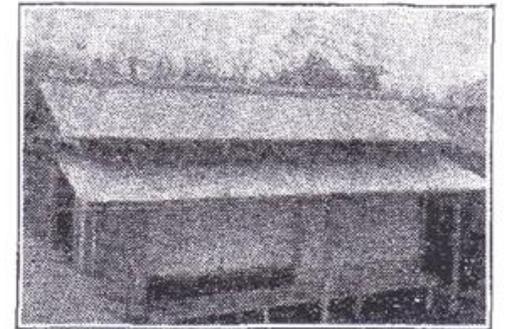
※日曜学校教室は教会堂の50フィート（15m）後ろに建てられ、2つの小部屋がある。建築費の100ドルは、南部一致シノットのジャパン・ミッションに対するカバー夫人の寄付による。

会堂門：右側 **ブラウン**宣教師
左側 **山内直丸**牧師

Sunday-School Rooms in Kumamoto.

Mrs. F. P. Cover, Andrews, N. C., has been deeply interested in our Japan Mission for some years. She was one of the first to subscribe a share to our proposed school. We pray the Lord to keep her in health and strength and in constant devotion to His work.

The picture herewith presented is the small house Mrs. Cover built for Sunday-school work in Kumamoto. It cost exactly \$100.00, and



SUNDAY-SCHOOL ROOMS, KUMAMOTO, JAPAN.

stands about fifty feet back of the church. The two rooms thus added to our plant enables us to scatter the classes and do more satisfactory work. As it is, we use the body of the church, two rooms in the small parsonage attached, and the two small rooms of the building Mrs. Cover so kindly gave us. Many thanks to Mrs. Cover.

ルーテル熊本教会の日曜学校のメダリストたち
1908(明治41)年3月「Tidings」より



THE MEDALISTS OF THE KUMAMOTO SUNDAY-SCHOOL

1919（大正8）年 熊本教会日曜学校花の日



1919（大正8）年の熊本教会日曜学校花の日（熊本教会は柳の木のある教会と言われた。）

最後列の中央（和服）：高瀬時助、6列目左より1人目：畠中啓吉、3人目：青山彦太郎、5列目左より1人目：坂田武一郎、7人目（カンカン帽）：田中寅雄、その左：吉田、左より4人目：高橋邑重外人夫人、5列目右から3人目：ウィンテル夫人、2人目：リップード夫人、4列目左より6人目：岩崎孝、7人目：石松量蔵牧師 3列目最右：青山四郎、その後方：富永俊二、5列目最右：大内、2列目左より1人目：牧野典次、4人目：井上嬢 1列目左より1人目：岩永則泰

九州学院系図

【ルーテル教会・教育機関】

ルウテル
路帖熊本教会（牧師：山内直丸、宣教師：ブラウン）
1898（明治31）年10月2日設立

私立熊本高等予備学校（校長：スタイワルト）
1908（明治41）年9月15日開校～1909（明治42）年6月26日閉鎖

ルウテル
路帖神学校（校長：ブラウン）
1909（明治42）年9月27日開校

【九州学院】

私立九州学院（設立者：ブラウン）
1910（明治43）年1月19日設立認可

私立九州学院（院長：遠山参良、主事：ブラウン）
1911（明治44）年4月15日開校

九州学院神学部（神学部長：ブラウン）
1911（明治44）年6月「路帖神学校」を改組

九州学院神学部専門学校（校長：スタイワルト）
1916（大正5）年5月開校

九州学院教会（初代牧師：ホールン）
1921（大正10）年2月24日発足

九州学院神学部専門学校（校長：ネルセン）
1925（大正14）年9月10日東京・鷺宮に移転

日本ルーテル神学専門学校（校長：ネルセン）
1926（大正15）年3月31日認可（東京・鷺宮）

【幼稚園】

みどり幼稚園（園長：メリー・グレイ）
1924（大正13）年12月開園

九州学院（院長：遠山参良）
1928（昭和3）年11月17日名称変更認可

九州中学校（校長：稲富肇）
1943（昭和18）年4月1日設立認可、改称

実務科 1945（昭和20）年4月1日設置～9月15日解散式

九州学院中学校（院長：川瀬清）
1947（昭和22）年1月10日改称認可

九州学院高等学校（院長：川瀬清）
1948（昭和23）年4月1日設置認可

英語専攻科 1949（昭和24）年4月1日設置～1951（昭和26）年3月廃止

大江教会（牧師：古坂剛隆）

1936（昭和11）年3月「九州学院教会」を改称

九州学院みどり幼稚園（園長：川瀬清）

1954（昭和29）年4月1日、学校法人九州学院に移管

田中君代（旧秦）「私の思い出」（『教会七十五年のあゆみ』同前）より
「受洗 明治四十四年十二月二十五日（十二才）長野県上諏訪フィンランド、ルーテル
大正十一年十二月熊本教会に転籍

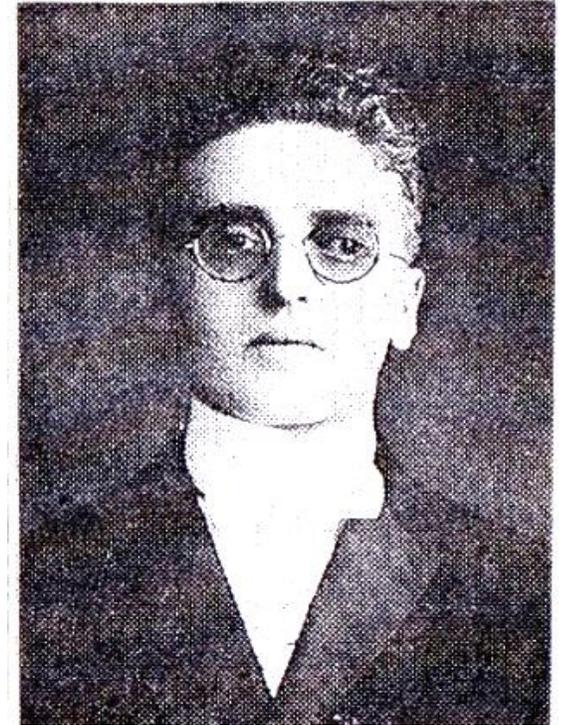
私の熊本での教会生活は大正十一年結婚してからで、今日迄、石松、牧瀬江口、谷口、長沼の五代の牧師先生の指導を受けました。大正十年から十六年迄の間は九州学院教会で稲富肇牧師の教えを受けました。大正十三年からしばらく九州学院英語教師**グレー夫妻**が、大江町木下氏宅の前家に住んでいた。木下氏と云えば、熊本教会員木下三愛さんや木下順子さんの家で、すぐその東隣りが私達があとで住んでいた家でした。

グレー先生がその頃、自分の家の座敷を開放して、附近の児童を集めて幼稚園のような事を始められた時、私は始めから手伝いをしました。その頃同時に、**グレー夫人**は夜自宅で石松牧師を迎えて、附近の人々を案内して、聖書をテキストにキリスト教の話がありました。

木下三愛、飯星、宮崎、山城の各家族が入信されました。五十年の信仰生活の中でいろいろ忘れられない事がありますが、特に記すべきことは昭和二十年六月三十日夜から七月一日朝にかけての空襲で教会も類焼し、又私の家も全焼したあとの数年間のことです。石松牧師は慈愛園に住み、礼拝を焼け残った**みどり幼稚園で礼拝**を行いました。

市内のルーテル教会員はみどり幼稚園で礼拝を守りましたが、終戦迄は礼拝にはほんの数人出席しただけでした。彦三さんの家族がよく唐芋やニギリ飯を持って礼拝に出席されました。持てるものをお互いに分け合って食べ、初代教会のように睦まじかったのです。池宮英才さんが、兵隊が解散されて後も後始末の任務があって、軍服姿で馬に乗って長い剣をぶらさげ幼稚園によく来ました。

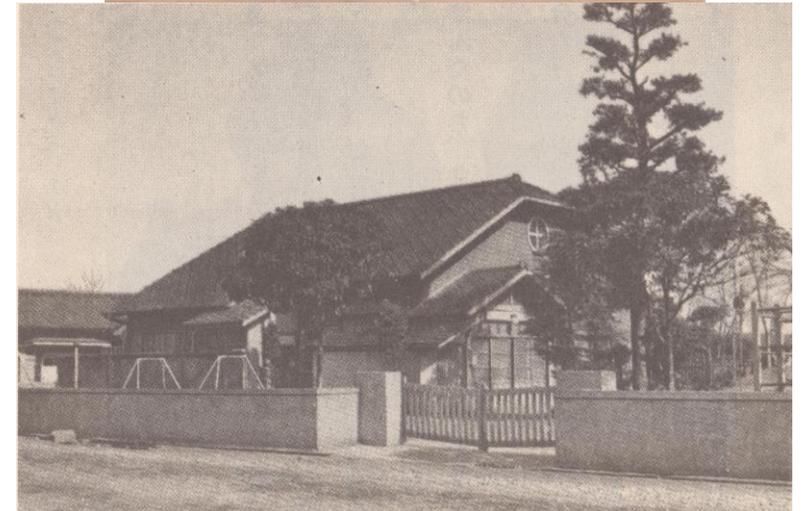
ピアノをよくひきました。歌もよく一緒に歌いました。後で池宮さんの家族が皆んな台湾から引き上げて幼稚園に来ました。今は皆東京で活躍しておられます。（後略）」



「みどり幼稚園」の誕生

1921（大正10）年アメリカルーテル教会から三人の宣教師が派遣された。その中の一人**ルイス・ジー・グレイ宣教師**は九州学院の英語教師として赴任し、熊本での宣教に従事していた。2年後の1923（大正12）年にルーテル教会婦人宣教師としてすでに熊本で働いていた**メリー・ラウ・バウス**と結婚し、熊本市大江に居を構えた。**メリー・グレイ夫人**はキリスト教主義幼児教育にかねてから関心が深く、どうか地域に根ざした宣教を展開したいと考え、保母であった**田中君代**（九州学院英語教師・田中寅雄の夫人、彼女は長野県立諏訪高等女学校から東京保母伝習所を卒業し、佐賀県小城幼稚園や郷里飯田の幼稚園での保母経験者であった）に幼稚園開設の相談をした。

1924（大正13）年12月のクリスマスの季節を期してグレイ宣教師の住まいであった宣教師館（大江）の一室に10名の幼児を集め、幼児教育を始めたのである。これが「みどり幼稚園」の誕生である。初代園長として**メリー・グレイ夫人**が就任し、保育者としてグレイ園長をはじめ**田中君代**、**山田たつ子**の3名がその働きを担った。しばらくして、山田たつ子は結婚のために退職し、その後任に熊本県立第一高等女学校を経て東京の保母養成学校を卒業したばかりの**青木夏子**（父親は、九州学院美術教師で、西洋画・油絵専門の有名な画伯であった）が就任した。（元理事長・園長：長岡立一郎「熊本での伝道と『みどり幼稚園』の誕生」・『九州学院百年史』収録）



1920年代後半、みどり幼稚園舎建築

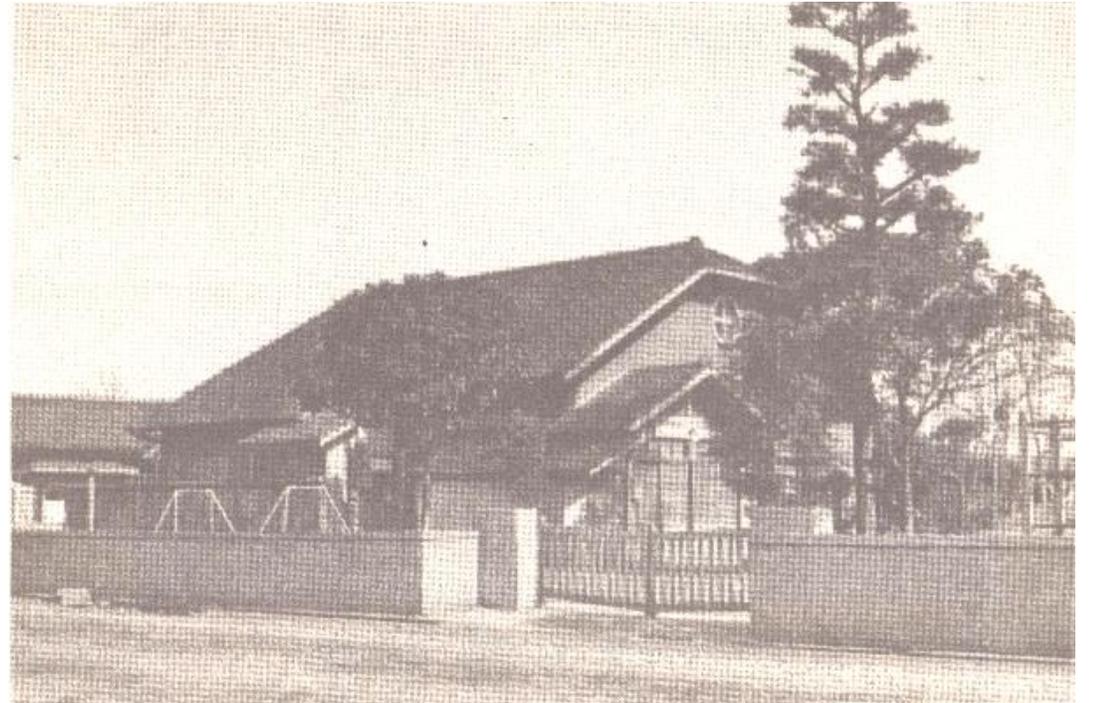
1930（昭和5）年3月1日、みどり幼稚園 正式認可

1925（大正14）年3月には第一回卒園式が挙行され、2名の卒園児を送り出した。第二回が5名、第三回が17名、第四回が16名、第五回が10名、第六回が13名の卒園生を送り出している。

その後、**グレイ宣教師夫妻**はアメリカに帰国し、在熊していた**D・G・M・バック宣教師夫妻**によって引き継がれていくことになる。

1920年代後半には、バック宣教師が居住していた宣教師館（新屋敷）内の庭が提供され、本格的に園舎が建てられることになる。園舎の資金はアメリカルーテル教会婦人会伝道協会によって寄贈され、内部設備の資金は母の会会員を中心に募金が寄せられた。園舎のデザインはバック宣教師の出身地のデンマーク建築様式が導入され、当時としては画期的な建築物であったに違いない。ちなみに当時の園舎建築後、保育室に掲げられていた天使の絵の欄間は、九州学院美術教師であった高浜虎喜によるデザインであった。

1930（昭和5）年3月1日付で熊本県知事より**みどり幼稚園**は正式に認可された。（元理事長・園長：長岡立一郎「熊本での伝道と『みどり幼稚園』の誕生」・『九州学院百年史』収録）



新屋敷のみどり幼稚園舎

1930（昭和5）年3月1日、「みどり幼稚園」（熊本市新屋敷町）が認可

大江の小さな幼稚会が移転。
バック宣教師が園長に、**田中君代**が
保育主任に就いた。



1930（昭和5）年3月、みどり幼稚園舎新築後の卒園式写真



最後列右から5番目：遠山参良院長、最前列左端：田中君代 保育主任か
後2列左から4番目：日本福音ルーテル熊本教会 第3代 石松量蔵牧師か

戦争による暗黒の時代

1941（昭和16）年、日米関係の悪化により**バック宣教師夫妻**は帰国を余儀なくされ、後任に**田中君代が第3代園長**として就任することとなる。同年12月8日、日米開戦となり、戦況は長引くにつれ厳しくなった。卒園児の中からも多く出征したのものもいた。

1945（昭和20）年7月1日未明、熊本市は大空襲に遭い、市内中心部をはじめ新屋敷周辺も焼け野原となってしまったが、みどり幼稚園だけが焼けずにそのまま残ったのである。

（元理事長・園長：長岡立一郎「戦争による暗黒時代」・『九州学院百年史』収録）

1941（昭和16）年

※この年、石松量蔵が『癩患者心理の観察』（新生館）を発行。皇太后を始め、関係方面に寄贈。

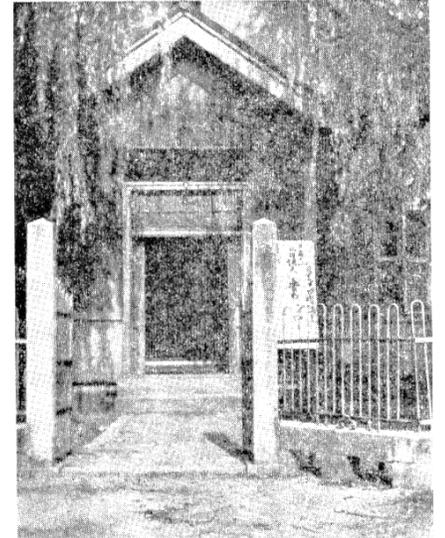
3～5月、ミラー学院主事夫妻が休暇帰国。シリンガー宣教師はスパイの嫌疑で解雇帰国。熊本在住の宣教師たち、エカード、バック、パウラスらが相次いで帰国。

4月27日、市内各教会合同の日曜学校野外礼拝が九州女学院校庭で行われ、100人が参集。



1945（昭和20）7月1日（日）熊本市大空襲。水道町教会（熊本教会）が空襲で焼失

石松量蔵牧師は慈愛園に逃れる。宣教師館（新屋敷町338番地）も焼失。みどり幼稚園の園舎は焼け残り、大江の家から焼け出された田中寅雄・君代一家が移り住む。石松量蔵牧師は慈愛園から通って、8日（日）から熊本教会の礼拝を守った。

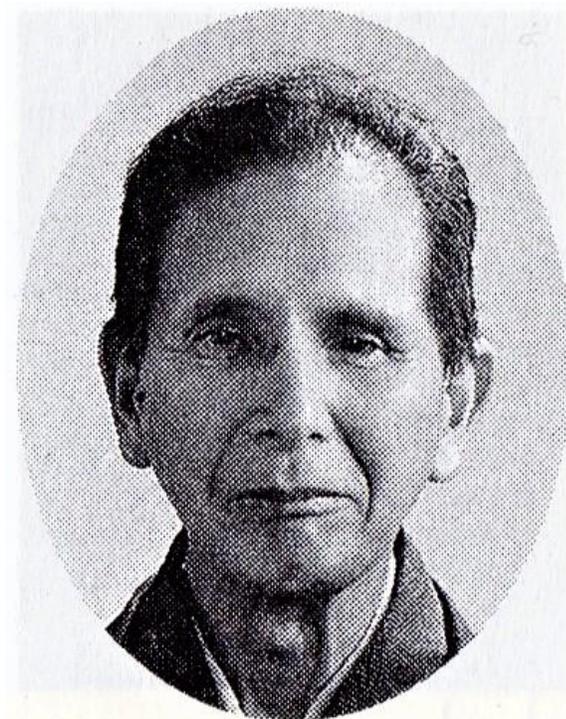


石松量蔵「空襲より終戦へ」（『盲目の恩寵 盲人牧師の記録』）より

「熊本の空襲は七月一日の夜ふけであった。その日はあたかも日曜日。朝からの警報で礼拝はできない。聖書屋の伊達老人が来訪、玄関で共に祈った。その夜は警報が解除されたので、八時から夕礼拝をする為にガウンを纏い、美穂子に奏楽をさせて礼拝をした。出席者は七人。外からは三人。副牧師をしている藤田武春、薬剤師の松村彦三、松田順三（閔命寿）という韓国から来た忠実なる信徒であった。礼拝が終わって外来者が帰った後、警戒警報が鳴ったので、もんぺ袴のまま二階に上ってよこたわっていると、空襲警報となった。階下に降りてラジオをきくと『敵機天草上空にあり北に向う』というので佐賀の方に向うのかと思うと、やがて『熊本は危険』と知らせるので、書類をかかえて、美穂子と姪のシゲヲと、手伝いに来ている原口光義を連れて防空壕に入る。すぐに敵機が上空に来襲、焼夷弾を落とす響がすさまじい。幾度となく会堂をのぞかしたが、此処には落ちなかった。空襲は約一時間半、午前一時に上空が静かになった。隣の防空壕から声がして『近所の人達は一人もいなくなったから、のがれようではないか』というので、防空壕を出て電車通りに出ると、新市街の方から燃えてきた火の手は、凄まじい勢で迫ってくる。北の方が静かなので通町の方に逃れ、坪井川を渡り、偕交舎の方に逃れた。そこには多くの人々が居て、県庁の官舎から最初に焼かれたので逃れてきた人達が、種々はなしていた。午前三時には、会堂（注・Katherine Sherer Memorial Church・明治38年6月20日献堂）も牧師館も共に焼かれたようである。

漸く黎明の頃となると、デマが飛んでくる。艦載機が三十機近づいて機銃掃射をするという。その夜の空襲には、B29が六十機程の編隊で熊本市の六割が焼かれてしまったのであった。町内会の世話人は、火災に会った人々の逃げ場所を指示したが、私等は**慈愛園**に行くことを決心した。十時頃第一女学校の校庭でめし一杯を与えられたのはい言得ない喜びであった。

さて水道町に行ってみると、二十八年間自らの体のようにつかいこなした会堂や牧師館が全く灰燼にきしてしまった。しばし立ったまま感動に耽ったが、気を取りなおし、大甲橋を渡って、**九州学院**（当時・九州中学校）に至った。ここは無事であった。**稲富院長**に会って、慈愛園に移る旨を述べ神水にむかう。慈愛園も空襲で、第三ホームと十坪住宅が焼け、幼稚園も燃えかかったがこれは消し止められた。私らは洋館の園長館に住むこととなったが、職員の人々は皆親切に労わり、不自由なく此処で過すこととなった。/かつて、東京教会の本田牧師が、空襲のための聖書までも焼かれて礼拝ができなかったと言っていたので、ガウンや聖書一組、その他わずかばかりの品物だが慈愛園に持参したので集会のできる準備はあった。古新屋敷の**教師館**は焼けたが、**みどり幼稚園**は残り、**田中家**が住むことになったので、次の日曜日八日から、此処で礼拝をすることとした。出席者は十三名であったが、私は、神水から通って、此処を**水道町教会**の礼拝の場所に定めた。七月二十五日藤田武春牧師が結婚するので、此処を式場としてつけた。」



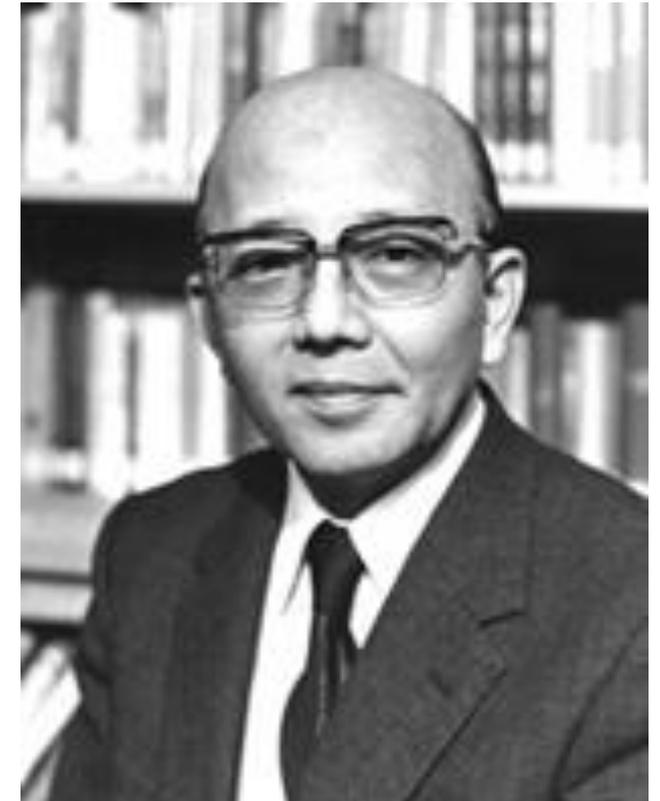
第3代 石松量蔵師

📖田中寅雄「昭和二十年には空襲」（『教会七十五年のあゆみ』）より

「松村彦三の家族などはよく（みどり幼稚園での礼拝に）出席した。八月十五日に終戦になったので、みどり幼稚園の戦時下の礼拝は一ヶ月半位の間ですみ、礼拝はその後**みどり幼稚園**でつづけられた。池宮英才が幼稚園に軍服姿で来始めた。礼拝のオルガンを奏いた。

進駐軍が熊本に来た。或る晩に三人の進駐軍が裏口から上り込んで来たことがあった。又或る日曜日にルーテル教会を求めて来た年若い一人の海兵隊がいた。それからは彼はしばしば遊びに来た。一年足らずで米国に帰り神学校に行ってミゾリーの宣教師となって、日本浦和に来た今は博士になり、カリフォルニア大学の日本文学の教授である。」

※池宮英才は、台北帝大在学中に応召し熊本の士官学校に入学することとなって来熊したが、数日入隊まで時があり、熊本教会の前を通った。その際、オルガンを弾かせてくれと石松牧師に頼んで来たのが縁となって、終戦後、熊本に滞在。**みどり幼稚園の音楽の応援、教会のオルガニスト**などをし、昭和21年11月～昭和23年10月まで九州学院の教職に就いた。その後、日本大学を卒業、東京女子大学教授となり、東京バッハ・アンサンブル常任指揮者として宗教音楽を中心に指揮活動をした。1969年ルーテル教会より、宗教に関する学問、芸術研究の業績に贈られる「リード賞」を受賞。日本ルーテル教会の礼拝式文のために通作したミサ曲などの作品がある。宗教音楽合唱連盟委員長。東京女子大学名誉教授。2003年11月21日召天。



石松量蔵「戦後の教会」（『盲目の恩寵 盲人牧師の記録』）より

「昭和二十年の十月となった。私はかつて、ルーテル教会に属していた九州地方の牧師達に手紙を書いて慈愛園に招き、懇談することとした。その頃一般に食糧事情が甚だ悪く困却していた時に、熊本地方は比較的によく、甘藷の収穫も多かったので、この会合は相応しかった。集る者は十名程であったが、一つには友情を温め、一つには一致して働くことを約した。もてなした甘藷は非常に喜ばれ、土産としてかついで帰る者もあった。八幡の川瀬、箱崎の田坂、博多の坪池牧師等は地方から来た主な人であった。これが皮切りに数回全国的にも集って貰い、種々協議を重ねた。アメリカの宣教師達も翌年の夏には来日する者があって、熊本においてはミラー、エカードの二師がいち早く到着した。これ等の宣教師と呼応し、ルーテル教会の再建が計画され、昭和二十二年十一月には、九州学院の講堂で再建総会が開かれ、岸千年を議長に立て、教団本部と接渉の結果、三十有余の教会が、日本福音ルーテル教会を再建することとなった。この間の熊本における教会の事情を少しく書いておかねばならない。みどり幼稚園における集会は次第にその数を増し、二十一年には百数十名に達した。ミラー、エカード両師の帰熊後は、九州学院や九州女学院の生徒等も多く集り、幼稚園では収容しきれなくなり、遂に日曜午後には、九州女学院の講堂で第二礼拝を行うこととなった。」

1946（昭和21）年4月1日、新学制により小学校、新制中学校が発足

「九州学院中学校」の「私立中学校設置の件」が認可される。

「九州女学院中学校」（旧清水中学校）設立。三浦冢（財団法人九州学院中学校理事長、ルーテル神学校教授）が院長に赴任。

4月、**みどり幼稚園**での礼拝（150名）を基にした市内4つの集会を教会として独立。**みどり幼稚園**の集会を熊本教会（牧瀬雄吉牧師）、九州学院の集会を大江教会（内海季秋牧師）、九州女学院の集会を室園教会（長沼三千夫牧師）、**慈愛園**の集会を神水教会（石松量蔵牧師）として牧師の人事配置が行われた。

大江教会が熊本教会から分離独立し、九州学院のブラウン記念礼拝堂で再出発。

6月、石松量蔵牧師、熊本教会を辞し神水教会に転任。

1947（昭和22）年

1月3日、スタイワルトが、10日、モード・パウラスが再来日。

1月10日、「九州中学校」を「九州学院中学校」と改称認可。

1月23～24日、日本福音ルーテル教会再建準備総会が九州学院中学校と清水女学校（旧九州女学院）を会場として開催。日本福音ルーテル教会を再組織。

2月3日、ハンナ・リデル女史15年忌追悼記念会が九州学院ブラウン記念礼拝堂で開催された。

2月14日、室園教会設立。



再建準備総会 会場：九州学院ブラウン記念礼拝堂

1954（昭和29）年3月6日，
「みどり幼稚園」創立30周年記念式典開催

4月1日，新屋敷の「みどり幼稚園」
（園長・田中君代）が「宗教法人
日本福音ルーテル熊本教会」から
「学校法人九州学院」に移管され、
「九州学院みどり幼稚園」となる。
園長に川瀬清院長が就任し、
田中君代は主任となる。



1977（昭和52）年5月6日，前院長・幼稚園長：池永春生氏、召天

「**齊藤院長**は基本的には前院長の教育方針を踏襲し、大学進学実績を向上させることと部活動の更なる隆盛を志向した。また、学院入学生のレベルアップと生徒確保にも苦心した。新たな決意のもとに出発した**齊藤院長**体制であったが、不測の事態に襲われる。退任したばかりの池永前院長が急逝したのである。

学院から請われて退任後**みどり幼稚園の園長**になっていた池永は、五月に入ってすぐ東京市ヶ谷の私学会館で開催された全国学校法人幼稚園協会園長会議出席のため熊本県代表として上京した。何かと忍従する池永は体調が思わしくないのも押し隠し、務めを果たすために身体に鞭打ったのである。ところが、ルーテル市谷センターに宿していた池永は、五月六日（金）明け方息絶え急逝していたのである。佐藤邦宏牧師から一〇時頃学院に悲報が伝えられ、**齊藤院長**と小崎事務次長が午後三時空路上京。翌七日（土）午後三時、遺体が空路帰熊。午後八時より通夜があり、八日（日）午後二時より大江教会で告別礼拝
生前の池永春生院長

が行われた。一二日（木）午後二時より学院体育館で次の次第による学院葬が行われた。県知事、熊本市長を始めとして、一三〇〇人（含む生徒六〇〇人）の参会者があった。」

📖藤本誠「池永前院長の急逝」（『九州学院百年史』第三編第三章第一節一）より



1982（昭和57）年3月，九州学院70周年記念事業・みどり幼稚園新園舎が竣工

主任：**田代恵美子**、
田中善一事務長が
園長兼務を辞し、
齊藤堅固院長が
園長を兼務。



4月, みどり幼稚園 新屋敷の土地を売却し、移転して保育開始



みどり幼稚園舎門に立つ田中善一事務長

1982（昭和57）年5月26日、みどり幼稚園舎新築落成式



現在地に新築されたみどり幼稚園舎



1984（昭和59）年熊本教会 教会学校 旧・みどり幼稚園（新屋敷）近くの白川畔にて



後列左端：田代恵美子先生（みどり幼稚園主任・教会学校長）

1992（平成4）年九州学院みどり幼稚園創立80周年記念礼拝・式典を挙行

九州学院みどり幼稚園創立80周年記念礼拝

司式 ファブリン 富島 裕史
メッセージ 理事長 長岡 立一郎
奏楽 村中 恭子

前奏

讚美歌 「主われを愛す」

聖書 マルコによる福音書第10章14節—15節

しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子どもたちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

祈り

メッセージ 「イエスキリストの招き」

讚美歌 「よろこび広げよう」

祝福

後奏

九州学院みどり幼稚園創立80周年記念式典

式次第

司会 池永 清

開会の辞

挨拶 九州学院長、九州学院みどり幼稚園長 内村公春

祝辞 熊本県総務部私学文書課長 市川靖之 様

熊本県私立幼稚園連合会理事長 上村龍淵 様

来賓紹介

ふたば会代表挨拶 庄しのぶ 様

園児による歌とメロディベル演奏

みどり幼稚園の歌

閉会の辞

(記念撮影)



内村公春みどり幼稚園長

九州学院みどり幼稚園創立80周年記念懇親会

2014年11月22日（土）みどり幼稚園 創立90周年記念礼拝・式典
九州学院ブラウン記念チャペルで挙行



創立90周年記念祝賀会が幼稚園舎で行われました。



ブラウンメモリアルチャペルの式典に出席した園児たちと先生

2015年4月、「子ども子育て支援法」に則り、幼保連携型の「認定こども園九州学院みどり幼稚園」となる。



が、今
後、熊
本市保
育幼稚
園課の
傘のも
と保育
料や施
設型給
付の補
助を受
けつつ
運用す
ること
になり
ます。
今ま
での幼
児の
誤の連
続でも
あり、か
ら、今
後、熊
本市保
育幼稚
園課の
傘のも
と保育
料や施
設型給
付の補
助を受
けつつ
運用す
ること
になり
ます。
今ま
での幼
児の
誤の連
続でも
あり、か

新年度が始まるとは、こども園九州学院み
どり幼稚園として再ス
や2ヶ月が過ぎ去りま
した。本年4月からみ
どり幼稚園は国の「子
ども子育て支援法」に
則り幼保連携型の認定
指導下になりました

幼保連携型認定こども園
九州学院みどり幼稚園園長
九州学院理事 長岡立一郎

九州学院みどり幼稚園
新たに「認定こども園」に



稚園と違う点は、0歳、
1歳、2歳児を受け
入れ、しかも全園児の
保護者の所得に応じて
保育料が市によって認
定され、入園可能な園
児として扱われるとい
うこととなります。あ
る意味で幼稚園と保育
園が合体した姿になる
ということでもありま
す。

また毎日の昼食も給
食に変わりました。専
門の管理栄養士の指導
の下、バランスのとれ
た昼食が提供されてい
ます。

現在、3歳未満児が
27名で、3〜5歳児ま
だが70名であり、全体
で97名の園児によって
構成されています。教
師陣も保育教諭とし
て位置づけられ、保
育・教育に当たってい
ます。殊に3歳未満児
を対象に取り組む分野
は、本園として試行錯
誤の連続でもあり、か

2016年6月20日『九学通信』



九州学院みどり幼稚園

熊本地震から75日

人と人のつながりの大切さ

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 長岡立一郎
九州学院理事長

熊本地震が起こってと16日の両日、マグニ
はや75日が経とうと チュード7、並びに7.3
しています。4月14日の大地震が勃発すると

は誰も予想していませんでした。実際、当事者になると、言葉に言い尽くせない恐怖と困惑のなかで日々を過ごしています。特に被災弱者という表現がありますように、子どもや高齢者、また慢性疾患を持っている人や障碍者の方々にとってその負担が大ききく、時間と支援がもつとも必要になってきます。

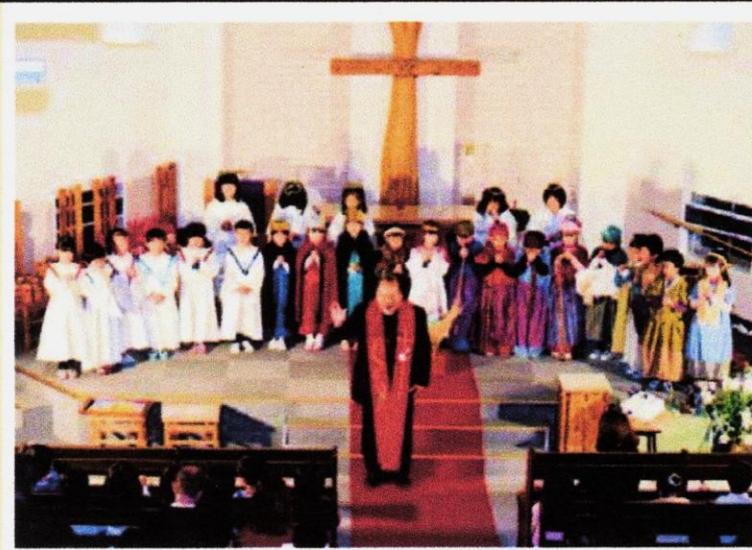
さてみどり幼稚園では、今103名の園児たちが園生活をおくっています。幸いに人的被害がなく、ほっとしています。しかし、心の傷は深く、トラウマとなり、しばらくケアが必要ですので、現場の保育士たちは細心の注意と配慮をもって、園児たちに関わ

ています。例えば、園児の中にはちよつとした音にも敏感に反応し、急に泣き出したり、暗いところを拒否したりします。なんといても親や教師が傍にいて、安心感を与えることが一番のようです。

日常保育を行う園舎は大きな被害はありませんでしたが、園庭を取り囲む塀に亀裂が入り、崩落寸前の状態です。一日も早く再建しなければなりません。

大地震を通してひしひしと感じることは、あらためて人と人のつながりの大切さです。周りの人との連帯があることによって、困難に立ち向かう勇氣や元気が出てくるものですから。そして、このことは子どもたちも同様なのです。

2017年2月15日『九学通信』



クリスマス(大江教会にて)

九州学院みどり幼稚園

日毎に成長する子どもたち

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 長岡立一郎
九州学院理事長

過ぐる2016年は、家を再建できず、不安
熊本地震によって大きな被害を受け、多くの被災者が未だ自分の

た地域に比べ、小さな被害にとどまりました。地震以降、園児たちの心の傷は徐々に取り除かれ、今では元気に園庭でドッジボール遊びに夢中です。

昨年暮れの園のクリスマス会は、九州学院東門前にある大江教会礼拝堂をお借りして行いました。年長・年中の園児たち(54名)と保護者(約80名)が集い、活気の溢れるクリスマス会となりました。園児たちは大きな声で讃美歌を歌い、年長(ゆり組)の園児たちも聖誕劇を一生懸命練習を重ね、本番でも上手に劇を演じきり、達成感を味わっていました。

また、12月19日には例年行っています大根掘りを年少から年長に至る園児たち、総勢80名が熊本北部にありますがカントリーパークまで出かけ、泥まみれになって大きな大根を掘り当て、自慢そうに報告してくれました。昨年の大根は地震の影響も少なく、良質でしかも大きなものに育ったとのことでした。

園児たちの成長も一日一日目を見張るものがあり、昨日まで「知らなかった言葉」や運動で「できなかったこと」を身につけ、周りの者は驚くことの連続です。これも神さまのお支えと導きあつてのことですから、感謝するのみであります。

新年が明け、早々から小春日和の日が続いています。熊本が、今年こそ穏やかで平和な一年となりますように、と願っています。

2018年2月15日 『九学通信』 より

九州学院みどり幼稚園

子どもたちの安心

それは親子や家庭の絆から

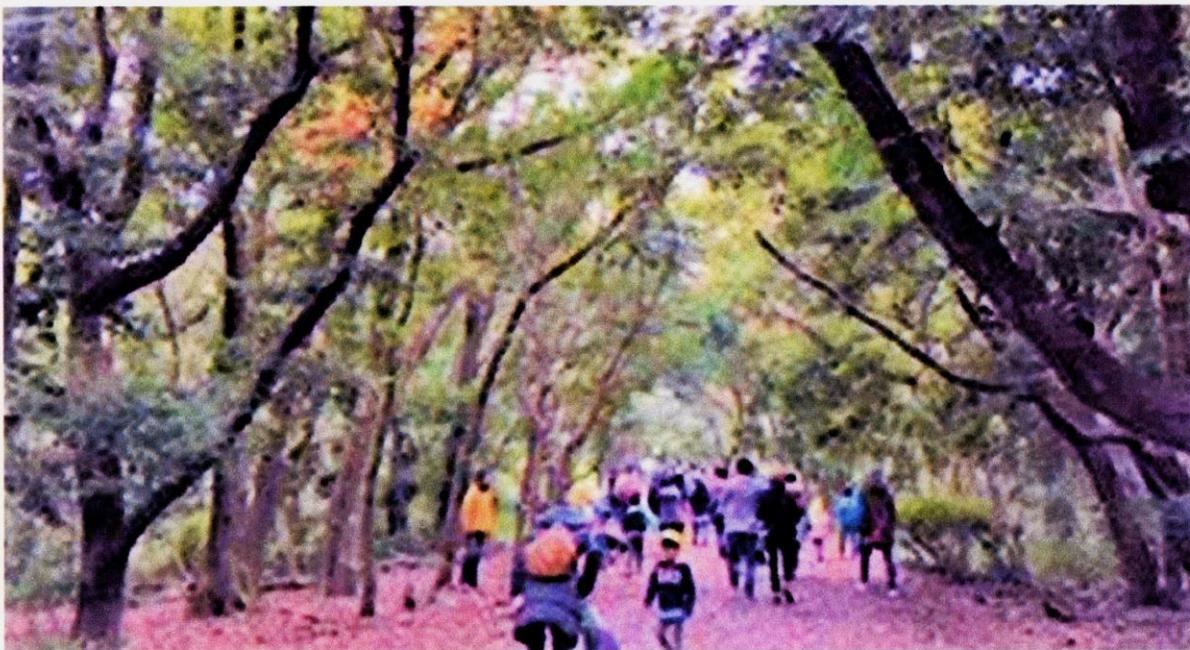
認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 長岡立一郎
九州学院理事長

新春、明けましておめでとうございます。その要因としましては、夫婦共働きのご

みどり幼稚園も認定こども園になってから3年目を迎えようとしています。この間1号、2号、3号認定制度の種別によって保育時間が異なり、園児たちの園生活の過ごし方にも微妙な変化が生じてきているようです。またふたば会（保護者会）の集まりにおきましては、一同が揃って集まりの場を持つことが難しくなってきました。

そのような状況ですが保護者会役員の方々を中心に、園行事に保護者の皆さまには協力的な働きを担っていただいておりますこと厚く感謝申し上げます。

みどり幼稚園では、役員以外の保護者の皆さまにも何かの役割を担っていただきたいと



の方針のもと、働きかけを行わせていただいています。それは、園児、保護者、教職員全員が、一つの共同体としてのみどり幼稚園を構成し機能させることが大切であると考えるからであります。

幼児期においては何といっても親の愛情、家庭生活での関わり方が最も重要です。子どもたちが「安心」して日々を過ごせるのは、「自分が独りぼっちではなく、お父さんやお母さんがいつも自分を見守ってくれているから大丈夫だ」の気持ちが大きいと思います。

さて、昨年11月後半には、親子や園の友達と共有できる体験学習プログラムを実施しました。それは親子の絆の大切さをあらためて体験すること、自然との触れ合いを体験できる活動の一つとして立田山ハイキングを計画しました。軽い山登りでしたが、親子で自然の草花を見て語り合い、手作りのお弁当を美味しく食べる子どもたちの姿と、親子が共にいることに、温かさを感じました。

みどり幼稚園が皆さまの愛に促され、お互いに一人の人間として尊ぶことのできる「子どもの園」でありたいと願うとともに、親子が喜んで集い、笑顔が溢れる園であるようにと祈りつつ、取り組んでまいります。

2019年10月21日、カーニバル（運動会） 九州学院百周年記念体育館にて



ふたば会
(PTA)
の競技



2020年2月15日『九学通信』より

九州学院みどり幼稚園

百聞は一見に如かず
体験できることのありがたさ

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 松田正二郎

12月の終わり、年中さんがNHKに参りました。みどり幼稚園のみんなで自作の献金箱にコツコツ貯めた大切なお金をもって「海外助け合い」「歳末助け合い」に献金するためです。

毎年行っている年中行事とはいえ、自分たちが貯めた献金を直接届けるというのは子供たちにとってとてもいい経験です。しかし、NHKなどから遠い地区にある幼稚園では直接行くのは大変なことなのです。

バスを使った体験学習にはカントリーパークでの農業体験も欠かせません。



みどり幼稚園では、中心部に近いという地の利を生かし、献金届けだけではなく、美術館への見学や博物館でのプラネタリウム鑑賞などにも簡単に出かけることが可能なのです。今回のNHKへの小旅行では、できたばかりの桜町バスセンターにも行くことができ、真新しいショッピ

5月には芋の苗植え、6月にはジャガイモ掘りとトウモロコシの収穫。10月には芋ほり、12月にはダイコン掘りと年間5回も参ります。近く



に畑などのない街っ子たちにとって泥だらけになりながら収穫するという農業体験は大変貴重なものです。「大根に葉っぱがついてる!」「ジャガイモがつながってる!」など、収穫してみないとわからないことだらけなのです。

そんな体験ができるのも、九学に大型バスがあるお陰です。年少から年長まで約80名が行くためには、大型バスとマイクロバスの2台が必要です。もし、バス会社を利用すると数万円の費用が掛かります。そんな心配もせず、気軽に、農業体験料だけで参加できるのは、九学のバスがあるからなのです。

園で絵を描いたりダンスをしたりして過ごすのも大切です。しかし、幼児教育において自然に触れ、土まみれになり、街中で変わりがゆく熊本の様子をじかに目にするなどの体験は、百聞は一見に如かず。幼い子供たちの心に深く刻まれるのではないのでしょうか。

2020年9月28日、阿蘇デイキャンプ



葉祥明美術館



トロッコ列車



2021年12月18日、みどり幼稚園 同窓生クリスマス会



2022年5月10日、認定こども園 九州学院みどり幼稚園 入園式



2023年6月20日 『九学通信』 より

九州学院みどり幼稚園

子どもたちに学び
認識を新たに

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 新垣 力

純真無垢な園児たちは、触れ合うたくさんの人々を笑顔にしてくれます。どんなにつらい時でも子どもたちの表情や何気ない仕草に和まされます。

さて、まっさらな子どもたちと過ごしていると、時折、ハツとする瞬間があります。午後から一緒に遊ぶ約束をしたある日、急な都合で遊べなかったことがありました。約束をしたその子は、当然のことながら「いっしょに遊ぶって約束したじゃないか！」と私を厳しい口調で叱責しました。園児たちにとつ

て、「いっしょに遊ぶ」ということはとても大切なことなのです。ところが、すぐに「明日は遊んでね！」と笑顔で許してくれました。なんと寛大なことでしょうか。「自分がこの子らのように寛大に人を許せる心を持ち合わせているのか？」自身に問いかける出来事でした。

任は重大です。私は、主に中学校で勤務してきました。生徒指導上の課題が発生した際は、当事者の生徒とともに原因を探っていきます。「なぜ？」も5回くらい辿ると確信に近づいていきます。小中学校での教育のあり方は当然ですが、幼児教育、家庭教育の重要性も併せて感じてきました。

改めて、「私たち大人の責任は重大です。」心の底から笑顔で子どもたちに寄り添わなくてはなりません。自己肯定感が低く、他人や物事のマイナス面ばかり目を向けているは、人との良い関係は築けません。自分自身が自己肯定感を高く保ち、心豊かでなくてはならないと言いつつ聞かせている毎日です。



2024年2月25日『九学通信』より

九州学院みどり幼稚園

みどり幼稚園百周年

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 新垣 力

2024年は、みどり幼稚園創立百周年にあたる記念の年です。

1924年（大正13年）12月、メリー・グレイ夫人宅の熊本市大江の宣教師館の一室で10名の子どもを集め、幼児教育を始められました。これが「みどり幼稚園」の設立となっています。グレイ宣教師夫妻の帰国に伴い、在熊のD.G.M.バツク夫妻に委ねられました。最初の園舎は、1926年、新屋敷に



あつたバツク夫妻の宣教師館の庭に建てられました。1941年、熊本大空襲で新屋敷一帯は焼け野が原になるものの、みどり幼稚園の園舎は消失を免れています。一説には、園舎に十字架が掲げられていたため、米軍も狙わなかったとのことです。つまり、神がお守りになったということ

です。戦後、1953年熊本大水害で被災しましたが、1982年、教職員住宅跡地に新築移転を行い、今に至っています。現在は、九州学院と隣接しているという立地を生かし、毎週、九州学院英語科の先生方による英語あそび、並びに九州学院体育の先生方に運動あそびをご指導いただいています。以前は、ドーナツ化現象により園児

数が減少する時代もありましたが、2015年から「認定こども園」としてスタートし、園児数は100名前後で推移しています。

イエス様は、幼い子どもたちや、乳飲み子までも呼び寄せて「神の国はこのような者たちのものである」と言われ、子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福してくださいました。（マルコによる福音書10章14節より）

初代園長、メリー・グレイ夫人をはじめ、みどり幼稚園に関わってこられた方々の幼児教育への思いは、イエス様のお言葉に寄り添ったものであったことに違いありません。

これからも百年の歴史と伝統を踏まえつつ、意思を継承し、子どもたちにぬくもりを与える「居場所」であり続けたいと思っております。

なお、本年11月9日（土）に百周年記念式典を予定しておりますことをご報告申し上げます。

2024年、創立100周年を迎える「九州学院みどり幼稚園」



【歴代みどり園長】

- ・ メリー グレイ 1924 (大正13) 年12月～1926 (大正15) 年 4月
- ・ D.G.M.バック 1926 (大正15) 年 4月～1941 (昭和16) 年 3月
- ・ 田中 君代 1941 (昭和16) 年 3月～1954 (昭和29) 年 3月
- ・ 川瀬 清 1954 (昭和29) 年 4月～1966 (昭和41) 年 3月
- ・ 池永 春生 1966 (昭和41) 年 4月～1977 (昭和52) 年 5月
- ・ 田中 善一 1977 (昭和52) 年 6月～1982 (昭和57) 年 3月
- ・ 齊藤 堅固 1982 (昭和57) 年 4月～1985 (昭和60) 年 3月
- ・ 西 一郎 1985 (昭和60) 年 4月～1995 (平成 7) 年 3月
- ・ 土山 研三 1995 (平成 7) 年 3月～2002 (平成14) 年 3月
- ・ 内村 公春 2002 (平成14) 年 3月～2009 (平成21) 年 6月
- ・ 長岡 立一郎 2009 (平成21) 年 7月～2018 (平成30) 年 3月
- ・ 松田 正二郎 2018 (平成30) 年 4月～2023 (令和 5) 年 3月
- ・ 新垣 力 2023 (令和 5) 年 4月～現在